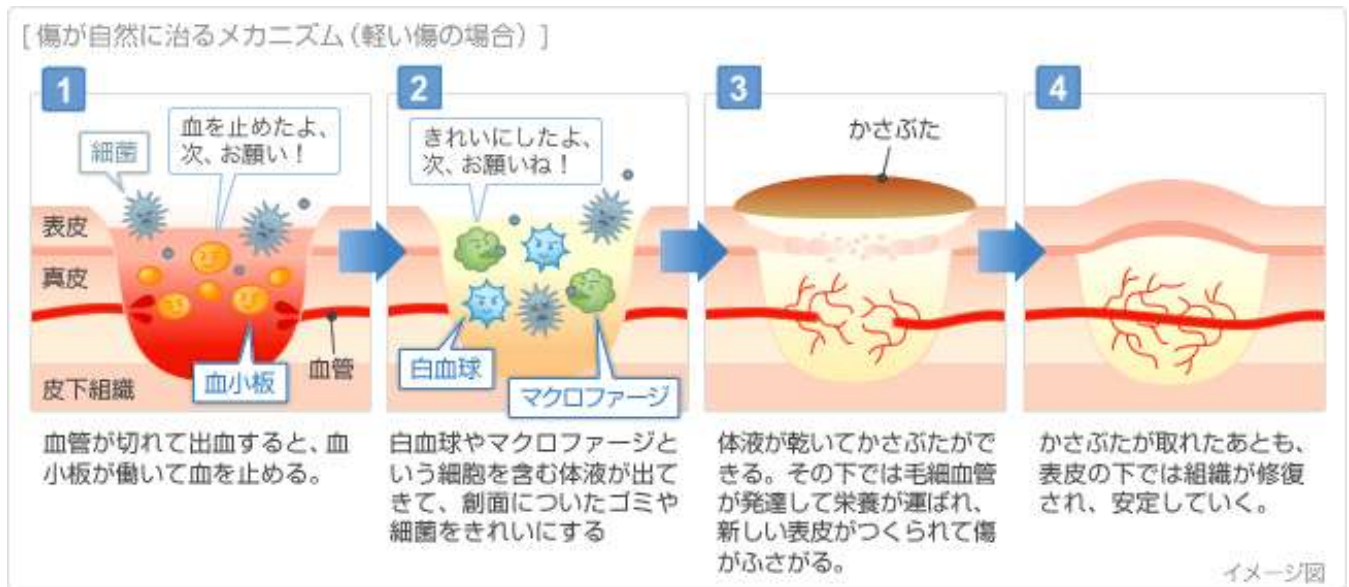


週刊 タバコの正体

タバコを吸うと血管が縮み血行が悪くなり、手足の温度が低くなったり、年齢より老けて見えるスモーカーズフェイスになる事を紹介してきましたが、まだ他にも悪影響を及ぼすことがあります。



第一三共ヘルスケア「からだの症状」サイトから

上は、皮膚の傷が治る様子のイメージ図です。皮膚の下で毛細血管が発達して新しい表皮がつくられていくのがわかりますよね。こんな場合、タバコを吸っている人は毛細血管が縮みますから傷が治りにくくなります。

とは言っても、軽い擦り傷や切り傷の治りが多少悪くなくても日常生活に差しさわりはないので、実際には気にならないでしょう。でも、この事が切実な問題を引き起こす場合もあります。それは“手術”です。喫煙者は、手術の傷が治りにくく開きやすくなるので再手術の可能性が高くなるそうです。さらに、タバコを吸うと「痛みに敏感になる」ことも分かっているため麻酔にも影響するそうです。

多くの健康な人は手術を気にかけて事がないでしょう。だから、タバコが手術に悪影響を与えることを知っている人は少ないと思います。しかし、手術患者が喫煙者の場合、禁煙指導をしてから手術をする病院が多くなっているようです。なかには禁煙できるまで手術を延期する場合もあるそうです。

一旦ニコチン依存症にかかっていると、手術が必要な事態になっても、まず禁煙という壁を乗り越えなければ治療が始まらないのです。

こんな事を知ってしまうと、ますますタバコに興味がなくなりますよね。